

平成26年 9月

桑原政成 学位論文審査要旨

主 査 山 本 一 博
副主査 谷 口 晋 一
同 久 留 一 郎

主論文

Relationship between serum uric acid levels and hypertension among Japanese individuals not treated for hyperuricemia and hypertension

(高尿酸血症、高血圧に対して内服加療を行っていない日本人を対象とした、血清尿酸値と高血圧との関係)

(著者：桑原政成、丹羽公一郎、西裕太郎、水野篤、浅野拓、増田慶太、小松一貴、山添正博、高橋理、久留一郎)

平成26年 Hypertension Research 37巻 785頁～789頁

参考論文

1. 末梢動脈疾患患者に対するリハビリテーションの症状改善効果

(著者：桑原政成、安齋均、西裕太郎、内山伸、久留一郎、林田憲明)

平成22年 心臓リハビリテーション 15巻 261頁～264頁

2. A comparative study on the effectiveness of losartan/hydrochlorothiazide and telmisartan/hydrochlorothiazide in patients with hypertension

(高血圧患者に対するロサルタン/ヒドロクロロチアジドとテルミサルタン/ヒドロクロロチアジドの効果についての比較検討)

(著者：浜田紀宏、桑原政成、渡邊ありさ、水田栄之助、大田原顕、面谷博紀、渡部雅史、仲村広毅、廣田裕、宮崎聡、加藤雅彦、荻野和秀、小坂博基、二宮治明、谷口晋一、山本一博、小竹寛、久留一郎)

平成26年 Clinical and Experimental Hypertension 36巻 251頁～257頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、高尿酸血症と高血圧の関係について、高血圧や高尿酸血症の治療薬を服薬している患者を除外し、健康な生活を送っている日本人の成人集団を対象として、血清尿酸値高値が独立した高血圧の因子となることを示したものである。本研究は、後ろ向き横断研究であるが、データ欠損が非常に少なく、数も多く質の高い研究である。高尿酸血症と高血圧の関係については、腎機能低下や、メタボリックシンドロームの影響で尿酸が上がっているとの意見も多く、単なる交絡因子を見ているだけとの意見もあったが、本研究はこれらの交絡因子を多変量解析で考慮して検討を行っており、高尿酸血症が独立して高血圧に関与していることを示した。また、本研究は男女共に高尿酸血症が高血圧の因子となることを示しており、尿酸の研究において明らかに学術水準を高めたものと認める。